

擴張を企圖するも、國民の大多數は、舊來のモンロー主義を持ち、議會に於て之を否認せり。

地方及都府 合衆國は地域廣大なるを以て、通常之を下の五大部に分つ。

(一)大西洋岸北部諸州 國の北東部に當る大西洋沿岸の九州を包括す、幅員廣からざるも人口最も稠密、工業及貿易盛大にして、大都府少なからず。

紐育府は人口四百一萬、新世界第一の大都會にして、又世界第二の都會也、ホドソン河口に瀆み、長島其前に横はりて風濤を防ぎ、東は海路直に歐州に至るべく、西は鐵道に依りて太平洋岸に達すべし、所謂四通八達の要所を占め、船舶埠頭に集り百貨輻輳し、製造業又旺盛也。

費府は、紐育府の南西テラウエア河口に位す、國內第三の都會にして、人口百三十七萬を有し、製造業極めて盛也、有名なる獨立館あり。

ボストン府は、紐育の北東に在り、人口五十九萬、英佛獨との貿易主場にして、綿毛の紡績業盛也、フランクリン其他諸大家の輩出せし所にして、郊外にハーヴァート

大學あり。

ピッツバーグ府は、紐育の西に在り、近傍鐵、石油、石炭の産出に富み、工業盛大也、人口三十四萬あり。

(二)大西洋南部諸州、大西洋沿岸の南部八州及一區を包括し、煙草、綿の産出を以て名あり。

華盛頓府は、合衆國の首都也、人口廿八萬、他の商業府の如く繁盛ならざれども、壯嚴を以て名あり。

バルチモア府は華府の北東に在り、人口五十三萬、有名なるジョンズホツフキンス大學あり。

(三)北中央部諸州 中央大平原の北部を占め十二州を包括す、農工業盛にして繁盛なる都府多し。

市俄古府はミシガン湖畔に在り、穀物、家畜、木材の商業甚だ盛大也、此府七八十年前迄は一寒村なりしが、其産物の豊なると其位地の良好なるとを以て、次第に繁昌

し、今は人口百八十七萬を超え、紐育に次ぐの大都となり、其隆昌の迅速なること世界第一也。

セントルイス府は、ミスシッピ河の西岸に位し、ミスソリー河の會合點に密接す、人口六十一萬、略ぼ此國の中央點に位す。

(四)南中央部諸州 大平原の南部墨西哥に至る七州一部落を總稱す。

ニューオルレアン府は、ミスシッピ河口の三稜州中に在り、國內第二の貿易港にして、綿花取引の盛なる世界に一二を争ふ。

ルイスア井ール府は、オハイヨ河の左岸に在り、煙草商業の中心地也。

(五)西部諸州 西部高原及太平洋の九州及二地方を總稱す。

桑^{サンフランシスコ}港は太平洋岸無比の要港也、東洋及南洋に對する貿易港にして、盛に穀類、礦物及木材を輸出す、横濱を去ること四千七百餘哩、邦人の在留者少なからず、人口三十五萬、將來益々發達すべき地也、桑港の東にサクラメント市あり、シヤトル市は我郵船の碇泊所也、タコマ市は、近來東洋貨物の集散地となり、頓に繁榮を來せり、ホ

ートランド市は、北太平洋鐵道の起點に當り日本郵船の定繫所也、汽車汽船の連絡所として、將來有望の港也。

以上五大部の外に、印甸部落及アラスカ部落あり、印甸部落は合衆國の中央に在る一地方にて、印甸人の住所也、近時次第に開明に進めども、其人口減少して三十萬に過ぎず。

アラスカ部落は、北米の西北隅に位し、面積凡九萬方里の地を占むる一大半島と、アリユーシアン群島とより成る、半島の東南隅には、北米第一の高峰ロガン山聳峙して、加奈陀と境を分つ、ユーコン河は此地方の大河也、群島は活火山多く、半島沿岸と共に水産に富めり。

第四節 墨西哥 面積 七十六萬七千哩 人口 千三百五十四萬

合衆國の南より半島狀をなし墨西哥灣を擁す、地勢殆ど高原より成ると云ふも不可なく、落機山系此國に入りて、高峻なる火山脈となり、ポボカテペトルの最高峰一萬

八千尺に達す、此脈の西部は廣漠たる高原を作り、低地は僅に海岸に存するのみ、墨西哥灣には著名なる港少し、太平洋沿岸には、下カリフォルニア半島南方に突出して、同名の灣を擁す、地勢の關係より大河なく、唯合衆國との境をなせるグランド河は、稍々大にして下流は舟楫を通ず。

氣候は三様あり、(一)溫和乾燥なる高原の氣候、此國の大半は之に屬す、(二)高熱陰濕なる低地の氣候、(三)寒冷なる山地の氣候、是れ也、産物は鐵産を第一とす、就中銀の産出夥しく、一年の産額六千萬圓に上り、世界銀産額の過半を占む、又多量の金、銅を産す、其他各種の礦物豊なり、農産は土地肥沃なるを以て、高原地方の玉蜀黍、麥、綿、麻、煙草を始め、低地方には鳳梨、椰子、甘蔗、護謨、コチニール(染料昆虫)等の熱帯産に富む、されど農業は概して充分に發達せず、又森林は各種の良材に富み、牧畜も將來有望也、此國は斯く天産物に富むも、人民怠惰にして、富源の開發に勉めざるを以て、農工業共に進歩せず、鐵業の如きも稍々退歩の傾あり、故に政府は特別の保護を與へて、各國の移住民を招かんとせり、其氣候風土最も我邦人に

適應すと云ふ。

住民の多くは印甸人及混合種にして、人口の大半を占め、其他は西班牙人の子孫及歐洲各國人也、言語は西班牙語行はれ、多くは基督舊教を奉じ、教育は未だ普及せず、政治は聯邦民主政治にして、其制は専ら合衆國に則とれり、陸海軍共に微弱也。

首府墨西哥(三十五萬)は、國の中央七千五百呎の高原に在り、四方繞らすに峯樹を以てし風光清絶也、市中央の伽藍は金銀珠玉を鏤め極めて壯觀也、墨西哥灣のエラクルス港は、此國第一の要港にして、アカブルコは太平洋の良港也。

第五節 中央亞米利加諸國

面積 十八萬方哩
人口 三百三十萬

墨西哥の南より巴馬地峽に至る間に在る、五共和國、一王國、一英領殖民地の總稱也、地勢は、墨西哥より來る山脈全土に蟠延し、北部の高原より漸次に傾斜し、又狹小となり、巴馬地峽に至りて、其幅僅に十二哩となる、此脈活火山に富み、往々激震あり、地味一般に肥沃にして、珈琲、甘蔗、椰子、藍、煙草を主なる物産とす、其他桃

心木の産出も少からず、工業及貿易は未だ發達せず、住民の大部は印甸人にして、西班牙人の子孫は少數なれども勢力を占む、宗教は基督舊教行はれ、教育は未だ進歩せず。

中央亞米利加は、新世界發見後墨西哥と共に、西班牙に占領せられしが、其後悉く西班牙に叛きて獨立せり、初は墨西哥と聯合せしも、程なく分離して「中米聯邦」を組織し、次で分裂して下の諸國となれり。

(一)グアテマラ共和國(首府ニューグアテマラ)、(二)サルバドル共和國(首府同名)(三)ホンチユラス共和國(首府テグシガルバ)、(四)ニカラガ共和國(首府マナガ)、(五)コスタリカ共和國(首府サンジューコス)、以上五共和國の議院は、多く一局制にして、行政權は大統領に委ぬ、各國の基礎未だ鞏固ならず、此外モスキーシア王國(首府グレータウン)、及英領ホンチユラスあり。

ニカラガ運河の有名なる計畫は、ニカラガ國の同名湖を通じて、カリビアン海に出るまで、全長百七十哩を開通する豫定にして、此運河開通の曉は、太平太西兩洋の通

路を短縮し、世界航路に一進化を與ふべし。

第六節 西印度諸島

面積 九萬五千方哩
人口 凡四百萬

合衆國フロリダ半島より、南米北岸に向ひ、弧環狀をなして散布し、墨西哥灣及カリビアン海を環れる大小千餘の群島を總稱す、島羣の形勢に依り、大アンチール群島、小アンチール群島、バハマ諸島に三大別す。

群嶋皆山多く、小アンチール諸島は火山に富む、全島を通じて著しき河湖なし、バハマ諸島の大部は温帯に横はり、其他は總て熱帯中に連亘す、概して海軟風及貿易風の影響を受けて暑熱酷しからず、群島皆獸類少く、短耳兎を以て最大の哺乳獸とす、又山嶽は皆森林に蔽はれ桃心木等の良材を産す、地味亦肥え物産に富み、砂糖及煙草は其名産たり。

住民は黒人大部を占め、西班牙人之に亞ぎ、西班牙語専ら行はる、交通も漸次に發達し、キユバ島には一千哩の鐵道あり、英、米、佛、和蘭、丁抹の諸國、此群島を分有

し、僅にハイチ島のみ二獨立共和國に分る。

キユバ島(大アンチール島の中)は、群島中の最大島にして、「アンチール女王」と稱せらる、土地肥沃にして、砂糖及ハバナ巻煙草(マニラと並稱せる)の兩産物は名高し、首府ハバナ(二十萬)は、産物の輸出港にして、フロリダ海峡に臨める美麗且開化せる都府也、島の東端にサンチアゴの要港あり、元西班牙領たりしも、米西戦争の結果、合衆國保護の下に獨立せり、米領ポルトリコ島は、キユバの東に位し、氣候最も順良也。

英領ジャマイカ島は第三の大島にして、河流頗る多く、砂糖、珈琲、香料を産す、商業の中心をキングストンと云ふ。

英領バハマ諸島は、二十の珊瑚島より成り、首府をナツソーと云ふ、其ワットリング島は、コロンプスの第一發見地也。

英領アンチール諸島中、バルハドース島は、英國海軍根據地の一たるを以て、トリニダット島は、土瀝青の湖あるを以て共に名高し、アンチカ島は産物に富み、砂糖、火

酒を輸出す、ヘルムータ諸島は、四百の珊瑚島より成り、人の居住するもの五島あり、都府はハミルトンと云ふ。

其他諸島を分領する諸國中、佛國はマーチニク、ガタローツ其他二三の小島を有し、和蘭はキユラソー其他二三小島を領し、又佛國とセントマチアン島を分領す、丁抹はハージン諸島中の最大なるサンタクルーズ、セントトーマス及びセントジョン島を有す。

ハイチ島は、サンドミンゴ、ハイチの獨立二共和國に分る、群島中第二の大島なるも、人口百萬に至らず、大概未開の黑人及混合種也、沃野鑛山多しと雖も、白人其地を所有するを許さず、又官吏たるの權、選舉權をも與へず。

第八章 南亞米利加洲

第一節 總論

南亞米利加は、新世界の南半部にして、北は巴馬地峽を以て中米に連り、東西は大

西太平洋兩洋に臨み、南は南水洋に入る、面積六百五十萬方哩、大部分は熱帯に位す。

一 地勢山河 アンデス山系は本州の主軸にして、南端の角岬ホッケンより州の西岸に沿ふて走り、全州を貫串して直に北巴馬パナマに迫る、全長四千哩、世界第一の長山脈也、此長脈の中央に沿ふて、アンデス大高原平均一萬尺の高度に擴がる、其中間にチ、カ、湖沼ふ、湖畔には二萬尺以上の高峰多し、此山系は火山に富み、南方に百三十座の活火山無數の熄火山あり、アコンカガ火岳二萬二千四百尺に聳え、チンボラソ之に劣ること僅に千七百尺、アンチサナ、コトバキシニ火山之と略ぼ比肩す、而して本州の西南部は、廣大なるブラジル高原蟠まる。

中央平原は、アンデス山系とブラジル高原の間に絶大なる展開をなし、地積凡三百五十萬方哩、即ち全洲の過半を領する大廣原也、オリノコ、アマゾン、パラナの三大江縦横に此大野を貫走し、流域自ら三大部に分る、オリノコ河は、ヴェネジューラの南東に發し、蜿蜒千五百五十哩、大三角洲をなして大西洋に入る、下流は大船を通すべし、此流域は茫々數萬方哩の間、天然の一大牧場と稱すべきも、節乾季に入れば地

焦げ草枯れ、滿目赤地と變じて寸草を止めざるに至る、之をオリノコ「ラノス」と稱す、世界第一の巨流アマゾン河は、源をアンデス山に發し、一千哩以上の大支流八條を呑み、水流汪洋海の如く、全長四千哩にして大西洋に注ぐ、河口開きて一大三稜江をなし、無數の島嶼其中にあり、赤道は正に其河口を通過し、本川の位置熱帯の多雨區域に在るを以て、吐水量の多き世界第一とす、舟運二萬哩其半は汽船を通すべく五百哩の上流迄潮汐を感ず、河口の深さ二百尋、幅五十七哩、流域二百三十余萬方哩に亘る、此流域は熱と濕とに依り、植物の發育極度に達し、喬樹蠻木天を蔽ひ、惡草毒羅地を包み、異禽鳴き怪獸吼へ、到底人類の住むに堪へず、僅に河岸に沿ふて旅行し得るのみ、之をアマゾン「林原」と云ふ、此の林原とオリノコ「ラノス」の間に、ギアナ高地あり、パラナ河は、ブラジル高地に發し、ウルガイ河を合せ、ラアラタ河となりて海に注ぐ、全長二千三百哩、河口濶大にして幅七十三哩あり、此河の水利も至大也、此流域は廣大なる草野にして間々大砂磧を交ゆ、凡一千萬頭の牛馬群をなして草野を徘徊す、是をパラナ「バムバス」と云ふ。

一 氣候産物 本洲の大部は熱帯中に位し、且北東、南東の兩貿易風を受くるを以て酷熱にして多濕、健康に害あり、但アンデス高地は氣候温和也、又南緯三十度以南は土地狭小にして、海洋の影響を受け、氣候頗る涼し、アンデス山系の西側は、非常に乾燥にして、往々無雨の地少からず、且つ東岸より低温也、又東側は貿易風アンデス山に衝突して、雨量甚だ多く、世界最大の河流は、之が爲に涵養せらる。

天産物は植物の種類多く『植物大陸』の名あり、幾那、護謨、椰子、棕櫚、蘇木、桃心木等の珍材及藥料を始とし、農産物には珈琲、綿、砂糖、藍、煙草、マニオツク、鳳梨等あり、其他珍奇の花を開く草木多し、動物は種類多からざれども、他洲に産せざる有用の家畜あり、無峰駱駝、羊駝是れ也、珍奇なるものには、猓、食蟻獸、亞獅、袋鼠、及アンデス山に棲む鷲の鷲、其他獼猴、鸚鵡、駝鳥、毒蛇、鱈魚等多し、礦物はアンデス山脈到る所に、金銀、銅、錫、寶石、金剛石等を埋藏するも採掘未だ盛ならず。

三 住民及沿革 本洲の人口は大約四千六百萬あり、人種の割合は印甸人四、黑人一

混合三、白人二の比也、宗教は基督教行はる、言語は概して西班牙語なれども、ブラジルには葡萄牙語行はる、白人及混合種は、主として西班牙人の子孫多し、印甸人は本洲の原住民にして、西部に住せし印加族の如きは、歐人の發見以前文化著しく發達し、アンデス高原は其經營所にして、チチカカ湖畔は實に南半開化の中心たりき、其後西班牙人葡萄牙人大に侵入して、各地を占領し權勢を振へり、然るに歐州に於ける西葡兩國の勢力衰微するに及び、智利先づ西國の羈絆を脱して獨立(九十八年前)せし以來、僅二十年間に各地獨立して共和國を建て、西班牙は終に全く南米に於ける勢力を失ふに至れり、現今ギアナのみは、未だ歐州に分領せらる、近時歐人の本洲に移住する者益々多きを加へ 南米の大平原は遠からず、人口稠密の地となるべき形勢也。

第二節

哥倫比亞

面積 五十萬五千方哩
人口 三百八十八萬

附 パナマ

南米北端の聯邦共和國也、西部はアンデス山地に屬し、東部オリノコ河低域たり、

氣候各種の溫度を有し、産物の種類多し、桃心木、シニコナ、珈琲、カ、オ、綿花、染料、護謨、及び金、銀、銅、鐵の鑛物等を主とす、首府をボゴタ(十萬)と云ひ、八千六百呎の高地に在るを以て、氣候溫和終年春の如し、鐵道三百哩を有す、大西洋岸にコロンの海港あり。

パナマ港は、大西洋岸に於ける重要な海港なりしが、我三十六年九月哥倫比亞より分離して、獨立小共和國を建設せり、ボゴタ府に鐵道通じ、海陸聯絡の要衝也。

第三節 ヴェネズエラ

面積 五十九萬方哩
人口 二百三十二萬

ヘリム山脈以北の聯邦共和國にして、オリノコ河國の中央を貫流し、大半は「コラス」の一大草原より成る、此國は土地肥沃にして農産物多く、草原には牛馬の大群畜殖す、又オリノコ金鑛は豊富を以て名あり、其他の産物は哥倫比亞に同じ、首府をカラツカス(八萬)と云ひ、鐵道四百哩を有す、國の東岸バリアヤ灣口に英領トリニダード島あり。

第四節 キアタ

面積 二十萬方哩
人口 三十七萬

此國は森林山岳の地にして、英佛蘭三國之を分領す、英領(西部)は最も大にして人口廿五萬を有し、支那人黒人の勞働者多し、首府をジョージタウンと云ひ、デメラ、河に臨む、蘭領(中部)は稍と少くして、首府をパラマリボと云ふ、佛領(東部)は最も小にして人口三萬に至らず、此國の産物は林産多く、農産之に亞ぐ。

第五節 伯刺西爾

面積 三百廿二萬方哩
人口 一千四百三十萬

伯刺西爾は、南米東部の大共和國也、其面積本州の半を占め、全歐州及合衆國と略ぼ匹敵す、國の南部はブラジル高地にして、北部はアマゾン大河及其大支流の灌漑する廣大の平原にして、所謂「林原」地方也、隨て喬樹灌木の種類夥しく、植物に富めること世界第一也、珈琲は全地球産出額の三分の二を産し、綿花は合衆國と競ひ、甘蔗は西印度と争ふべし、護謨、煙草、菓實之に次ぐ、動物も多種多様にして、殆ど南

米動物の總てを産し、就中鸚鵡及食用鳥類を多産す、又草野には牛、馬、羊群を成す、
 鑛物は金剛石、寶石、金、銀、銅、石炭、石油等の産出多し、首府リオデジヤネロは
 南米第二の大都會にして、人口七十五萬、大西洋岸に在り、バヒア市は其北に在る要
 港也、鐵道殆ど六十哩に達し、外國貿易漸次に發達す、我條約國也。

第六節 エクアドル

面積 十二萬方哩
 人口 百三十萬

赤道直下に在るを以て國名の起源とす、西部はアンデス山地にして、チムボラゾー
 及コトバツキシの如き著名の火山あり、東部はアマゾン平原也、重要な物産は、珈琲
 カカオ、護謨、幾那皮を初め、植物象牙と名けて椰子殻にて鈕を製す、又「バナマ帽
 子」を製造す、輸出共に盛也、首府クヰト(八萬)は九千五百呎の高臺に在り、氣候爽
 快に、アンデスの雪峰雲に聳へ、景色雄麗なれども數々震災あり、海をガヤキール(四
 萬五千)と云ひ、鐵道は僅に百哩に過ぎず、又共和國也。

第七節 ボリビア

面積 七十七萬二千方哩
 人口 二百五十萬

東半部はアマゾン平原にして、西半部は南米の最大高原を負ひ、二萬尺以上の高峰及
 チチカ、湖あり、農業鑛業を主要の産業とし、優等の護謨及「コカ」を産す、鑛産は當
 國の富源にして、金銀硝石に富み、ポトシの銀鑛特に著はる、共和政にして首府をス
 クレと云ふ人口少し、最大の都府をラーパスと云ひ人口六萬あり、又ポトシ市は一萬
 三千尺の高原に建ち、世界最高の都會として名高し、此國鐵道なく又内地に在るを以
 て、亞爾然丁のフェノスアイレス港を輸出港とす。

第八節

秘露

面積 四十六萬方哩
 人口 二百七十萬

南米の故國にして聯邦共和制を執る、全土アンデス山脈蜿蜒して低地少し、産物は
 農産を最とし、森林地にはシンコナ樹を培養し、優良の幾那皮を多産し、「秘露皮」の
 名著はる、アマゾン上流の豊饒なる地には甘蔗馬鈴薯を植培す、特に馬鈴薯は原産地な
 りと云ふ、無峰駝はアンデス山中貨物の運輸に用ひ、羊駝よりは優等の毛を得、海岸
 の特産として肥料用の鳥糞あり、又銀、硝石の産あり、首府リマ(十一萬)南米有數の

大商都也、此府には本州最舊の大學あり、カラオは其海港也、高原の子チカカ湖畔は本州最古の開化種たる印加族インカスの建設せる舊都の遺蹟多し、鐵道一千七百哩、其一線はアンデス山頂に近き所に達す、又我條約國とす。

第九節 **パラグエー** 面積 九萬八千方哩 人口 六十余萬

伯刺西爾ブラスル及ボリビアの西南に介在する一小共和國にして、海岸線を有せず、ビルコマヨ、パラナ兩河國の兩端を流れ、能く舟航を利用す、主産物は茶煙草にして「パラグエー茶」は此國の特産也、首府をアサンシヨン（一萬八千）と云ふ。

第十節 **ウルグエー** 面積 七萬二千方哩 人口 七十八萬

此國はラプラタ河口の北岸に在る南米の最小共和國也、國の中央は南緯三十五度に當り、我日本の對蹠地にして、晝夜四季とも全く我邦と反對也、牧畜最も盛にして、獸皮、羊毛、乾肉、獸脂等を産す、鐵道五百哩、補ふに舟利を以てす、首府をモンチ

ビデオ十四萬と云ひ、主要の海港也。

第十一節 **亞爾然丁** 面積 百十三萬六千方哩 人口 四百八十萬

本州第二の大聯邦共和國也、西方智利との境は、アンデス山脈障壁の如く峙つ、其東麓は一面の大平原也、極南端はマゼラン海峽を隔て、火山力熾なるテラデルフェーゴ島火地に對す、國內概ね廣茫たる草野にして、牧畜最も盛に、歐人は小麥の栽培に従事せり、産物は牛、羊、馬、騾、山羊夥しく、羊毛の産最も名あり、金、銀、銅石炭、石油等の鑛産は、アンデス山中に豊富也、首府アエノスアレスは、ラプラタ河口に在り、人口一百萬に進み、南米第一の大都會たり、其他コリトバ、ロサリオの兩市も、繁榮なる都府也、交通は水運の外六千哩の鐵道、三萬哩の電線あり、此國は海外移住民の最も多く集る所なるを以て、人口の増加甚だ迅速也、國力も漸次發達し、海陸軍も略ぼ整備し、南米第一流の國也、又我條約國とす。

當國の屬地バタゴニアは、荒漠たる大地方にして、過半は砂漠也、土人は丈高く、

常に駱駝、三趾駝鳥、及び兔を捕獲するを業とす。

第十二節 智利

面積 二十八萬方哩
人口 二百七十餘萬

アタカマ砂漠よりマゼラン海峡に至る、本州西岸一帯の地を占めたる帶狀の國にして、長二千二百哩幅百哩とす、地勢は海岸の低地より、アンデス山系に向て次第に隆起し、高峻なる火山多し、南極洋より來る寒流海岸を洗ふを以て、氣候寒冷に人民最も勤勉也、耕地には小麥、甘蔗、綿花を産し、原野には牛馬羊の飼養盛に行はる、アンデスには硝石、銅、銀等の鑛産多く、就中硝石は重なる輸出品也、銅の輸出之に亞ぐ。

智利は南米諸國中、最も企業心に富める國にして、英國との貿易頗る盛也、鐵道の延長約二千哩、電信線一萬二千哩あり、首府サンチアゴは人口三十三萬を有するも、地震多き地なるを以て家屋低し、バルパライソ港は、西海岸に於ける南米第一の要港也、此國は獨立以來國運進歩し、軍備も大に整備せり、教育も漸々進歩し、南米有

數の開化國也。

第九章 大日本

面積十七萬五千八百七十七方哩
人口四千七百五十萬

雄大なる亞細亞大陸の諸邦國既に老衰に傾き、歐米列強の併呑或は干渉を被り、一も獨立の實を全うするものなし、獨り我大日本帝國は、清新なる勃興の勢と、東洋の盟主たるべき實力を備へ、毅然として東洋の表に卓立し、潮の如き西來の勢力に對抗し、東洋の平和を保全するの位地に立つ、其歴史の金甌無缺なる、其風光の明麗溫潤なる、其國民の勇敢進取なる、眞に花彩列島の名に背かず。

(一)世界に於ける日本の位置 亞細亞は總ての點に於て大也、陸土は世界の三分の一を占め、人口は他五大洲の總數に匹敵し、其富源の埋藏豊富なる、生産の饒多なる、需用の夥多なる、亞細亞は實に世界通商の大得意也、加ふるに亞細亞諸邦の國家として萎靡不振なるは、強國の勢力を扶植するに便なるものあり、特に他五大洲に於ける列國の勢力は、其範圍略ぼ確定し、又爭ふべき寸土を止めざるを以て、東亞を競争の舞臺と

し、各國皆全力を注ぐに至れり、茲に於て現代の亞細亞は、世界列強の角逐場たり、然るに我國は大陸の東面一葦水を隔て、長き障壁狀に盤桓し、東亞の咽喉を扼して、其門戸を封鎖するの位置に立ち、北宗谷海峽、南臺灣海峽の二海口を封せんか、廣大なる亞細亞の東部は、全く袋の鼠也、形勢の佳なること、英國の歐大陸に對するの比にあらず、加ふるに世界に類なき武士道の訓練を経たる、精銳無双の陸海軍備を以てす、如何なる強國の艦隊と雖も、日本の認諾なくしては、臺灣海峽を無事に通過するを得べからず、即ち天然の形勝の位置と、國力武備の充實と相俟ちて、我大日本は東洋の重鎮たり、翻つて他大陸に對する位地を觀すれば、東は大平洋を隔て、富裕なる亞米利加兩大洲に相對し、南は南洋諸島、濠洲大陸と遙に相望み、殆ど世界の中央を占むるの觀あり、故に世界に於ける日本の位地は、交通上軍事上至重要なるのみならず、通商貿易上至便至利の地に在り、國運の益々發展すべきことは、地理的位置の明かに吾人に示す所也。

(二)位置廣表 帝國は亞大陸の東、太平洋中に、東北より斜に帶狀をなして西南に起伏する無數の列島より成る、本洲其中央に位し、北に北海道、樺太島西南に四國、九州、臺灣あり、大島の數併せて六、小島無慮二千有余を有す、經度の延長は三十七度十二分間に亘り、緯度は廿九度十一分に達し、其盤桓する海域頗る廣大也、列島の周圍凡七千三百余里、面積約二萬九千余方哩、長さ凡一千三百里幅最も廣き所は百里に垂んとす。

六大嶋の面積は、四國を單位とし、臺灣略ぼ之に二倍し、九州は之より少しく大に樺太は稍々小也、北州は九州に二倍し、本洲は北洲の三倍、四國の十三倍に當る。

(三)沿岸 海岸線の長短は、其國の文野に至大の影響を及ぼす、凡そ其國文化の發達、通商貿易の盛衰、交通の便否等、海岸線の支配を受くるもの多し、而して我國は四面海を環らし、海岸の屈曲出入甚だ複雑なるを以て、海岸線は極めて長く、其延長七千三百余里に及ぶ、北州、樺太、四國、臺灣は、比較的屈曲短少なれども、本洲西南岸と九州の西岸とは、出入極めて複雑也。

本洲日本海沿岸は、風濤荒く遠淺若くは斷崖連續して、港灣に乏しく、羽後、若狹

能登、丹後、出雲に多少の屈曲あるのみ、之に反して太平洋沿岸には、仙臺灣、東京灣、房總半嶋、伊豆半嶋、駿河灣、伊勢海、大阪灣等の大屈曲に富み、海岸線は裏日本ノ二倍に當る、九州は北州の半分に過ぎざるも、海岸線は却て長く、四國は臺灣の二分の一なるも、海岸線は却て二倍以上也。

商港の重なるものは、本洲の西南岸に、横濱、神戸、大阪、清水(駿)、武豊(尾)、四日市、下の關等、北岸には敦賀、新潟、七尾(能)、宮津(丹)等、北海道には函館、小樽、室蘭、九州には長崎、門司、博多、唐津、臺灣には基隆、打狗、樺太には竹内港等あり。

海峽は、交通及國防上重要な關係を有す、其重なるものは、宗谷、千島、根室、津輕、浦賀、明石、鳴門、由良、來島、豊後、馬關、大隅、對島、朝鮮、臺灣、バシ一の十三海峽とす。

島嶼は、本洲に豆南諸島(大島、八丈島)、小笠原群島、瀬戸内海諸島、隱岐、佐渡等、北海道には千島列島、オクシリ島、レフン島、九州には壹岐、對島、天草諸島、

大島列島、種子島、其他無數の島嶼あり、琉球諸島は六島より成り、臺灣には澎湖島名高し。

(四)地勢山嶽 我國は亞細亞大陸の東邊に蜿蜒する五大山脈の、半腹以上海面に露はれたるものにして、西南より斜に東北に向ふて弓形に彎曲す、是れ日本の地路を構成する崑崙、樺太二大山系の方向に依るものにして、兩山系相會する所は、本洲中幅員最も廣く、地勢極めて高峻也、此外に富士、霧島、千島の三大火山脈あり、富士火山脈は中部を横ぎり、霧島火山脈は西南に、千島火山脈は東北に現はる、本邦の地勢は専ら此二大山系と三大火山脈の支配する所也。

支那大陸の崑崙山系海に没して、海中を走ること幾百裡、其餘勢我九州に入りて頭角を擡げ、九州山脈を起し、再び二脈に分れ、一派は四國を渡りて紀伊に越え、赤石山脈に連る、又一派は中國を貫走して、濃飛高原、飛彈山脈、木曾山脈を起す、霧島火山脈は、九州南部なる霧島活火山を主峰とし、琉球諸島を過ぎて臺灣に入る、樺太山系は、新領土樺太島に其系統を延き、北海道を縦貫して、本洲に亘り一派は、北上

阿武隈、足尾、筑波の諸山脈を起し、一派は中央分水山脈及陸奥山を起す、千島火山脈は露領東察加カムチャカより來り、千島列島を起し、北海道に入り南西に向ひ、其中央部に於て樺太山系に合す、富士火山脈は、南洋マリアナ群島より起り、小笠原群島、豆南諸島を経て本州に入り、越後に至り本州を横斷す、箱根、富士、淺間、燒山等此脈に屬す。

我國は有名なる火山國にして、其數二百以上に及ぶ、又有名の地震國にして、微震を通算する時は、殆ど日として地震なきはなく、火山破裂に原因するものよりは、地這りに原因するもの多し、而も火山は秀靈なる姿を以て、高く峻拔するを以て、我邦の風光は多く火山に美化せらる。

我國の最高峰は新高山(喜海)にして、一萬三千二百尺に聳ゆ、富士山は一萬二千三百六十五尺にして之に一步を讓る、御嶽(信濃)、乗鞍(飛彈)の二峰、一萬五百尺の高度を以て第三位に立つ、赤石(信濃)の界(白根(甲斐)の二峰少しく劣りて、共に一萬二百十尺也、越後越中の界なる大連華山は、之より下ること僅に百七十尺とす。

(五)水系平野 地勢狹長、山岳急峻、水流夥多なりと雖も、多くは急流細流に過ぎず、運輸航運の利便豊富なる、大陸的巨流は一も見らるべからず、特に山腹の斜面を急奔するを以て、水害の頻繁なるは甚だ憾むべしとなす、然く水運乏しく水害多しと雖も、河流の無數なるは、肥饒なる沃土を灌溉するに缺くべからず、故に我國の河流は灌溉用として利用せられ、交通用としては殆ど用ゐられず、且河水の利を擧ぐれば水、清くして飲むべし(水道)、流急にして水力用うべく(電力水車)、河床明かに兩岸高く巖秀で松老ひ、風景の美賞すべく、巫山巫峽的風景は到る所に在り。

主副兩山系の形勢多く中央を縦貫し、中部に山地高原を連亘すると同時に、漸次に兩際に向つて緩斜し、海岸に近くに從ひ、低夷なる平野を展開す、河川又之に沿ふて兩岸の平野に分流せらる、關東平野は平原中の最大なるものにして、六國に跨り四方四十里に及び、利根(七十一里)多摩、荒川の三流之を潤す、主都東京此中に在り、畿内平野之に次で頗る廣大、淀川、大和川之を貫走し、五國に連り京阪二都を始め、人口一萬以上の八都市此中に在り、人口最も稠密の平野也、濃尾平野は、木曾川の流

域にして、濃美二州に跨り、地味肥沃也、石狩平野は、石狩川(九十六里)の流域を占め、北州第一の平野也、阿武隈平野には、阿武隈川(七十七里)流れ、越後平野には、信濃川(百里本邦第一の河流)蜿蜒す、其他讃岐平野、筑紫平野、臺中平野(臺灣)等肥饒の生産地多く、又陸中陸前を灌漑する北上川(七十九里)流域も頗る豊か也。

湖沼は悉く淡水湖にして、琵琶湖周回七十一里を以て第一位に居り、霞が浦三十六里を以て第二位たり、之に次ぐは羽後の八郎湖、出雲の中海、岩代の猪苗代湖、常陸の北浦等也、是等の湖水は皆平地湖にして、水甚だ深からざるも魚族頗る豊富、且沿岸の風光は所謂平水の美に富む、山湖の著名なるは、日光中禪寺湖、箱根蘆の湖等にして、湖面大ならざるも、其風景の清く、其境の幽なるを以て、日本風景美の一要素たり。

(六)氣候 氣候は緯度、地勢、海流等の差異に依りて變化す、緯度は概ね温帯に在るも、北端は寒帯に迫り、南端は熱帯に近し、地勢は四面海を環らし、西北は亞大陸を控へ、國內は山脈中央に連亘し、降雨を多量ならしむ、加ふるに暖寒の二海流沿岸を洗ひ、氣候に種々なる變化を生ず、夏季は南風或は南西風、太平洋より多量の温氣を送り、九州四國の南部及紀伊の南端、並に東海道沿岸降雨多く、冬季は北風或は西北風、日本海の濕氣を齎し來り、北陸山陰兩道の地降雪多し、唯北海道及瀬戸内海沿岸の地は雨雪の量少し。

冬季の温度は、九州南端より犬吠岬に至る海岸の地は大差なし、反之、犬吠岬より北州根室に至る間は差異甚し、日本海沿岸は長崎より宗谷に至るまで、其差概して甚しからず、夏季の温度は全國大なる相違なく、北海道上川の寒地に於ても、三十五度の高温に上ることあり、臺灣は夏季温度の差少きも、冬季は南部と北部との差頗る甚し、是れ北部は寒流に洗はるゝが爲め也、本州中最も氣候温和なるは、山陽道及近畿にして、東海道も概して良好也、特に尾張常陸の如きは、全國一二の良氣候地とす。

海流は寒暖の二流ありて、著しく本邦の氣候を左右す、黒潮(暖流)は赤道の邊より起り、臺灣の東を北流し、二派に分れ、本流は琉球の東より、四國本州の南方を流れ陸前の邊より東北に折れ、北米の方に走る、支流は對馬海流となり、對馬海峡より日

本海に入り北方に進み、小分流を津輕海峡に出し、大部分は北海道の西岸を洗ひ、宗谷海峡よりオホーツク海に入る、親潮(寒流)は北方オホーツク海に起り、東察加の近海より西南に流れ、北海道の東岸を洗ひ、陸前の近海に於て黒潮に會して滅す、リマン海流(寒流)はオホーツク海より日本海に入り、西北岸を流る、北海道近海及本州の北東岸は、寒暖西海流の會合點なるを以て、屢々濃霧を生じ航海を危険ならしむ、又九月上旬より中旬の間に本邦に襲來する颶風、二百十日及二百二十日の厄日は、其本源ファイリツピン群島の近海に在り、季候風交代の爲め起るものとす。

(七)産業 我國は到る所地味豊饒にして、殆ど瘠土と稱すべきものなく、野には農産溢れ、山には林産鑛産充ち、水には水産豊か也、殊に氣候寒温熱の三帶に跨るを以て、各帶の産物を出し、其生業産物多種多様也。

林産 森林は到る所に鬱茂し、就中最大なる木曾森林は檜を産するを以て名高く、陸奥、羽後、上野、下野、越中、伊豆、大和、紀伊、日向の諸山林には、杉、檜、松、樺、椴、栗等の良材あり、臺灣には樟樹榕樹の大森林あり、森林は氣候の調和、水源の涵養に必要なるを以て、政府は大林区を設け林務官を置き之を保護す。

畜産 其他の生業に比較すれば未だ進歩せず、其重なるものは牛馬にして豚家禽之に次ぐ、牛の産地は九州中國にして、但馬産牛殊に名あり、馬の産地は奥羽及九州にして、南部馬名高し、水牛は臺灣に多し。

水産 甚だ豊富にして、特に北海道の沿海は、世界三大漁場の一に位す、之に次ぐは房總半島の沿岸、長崎縣の近海等也、水産の重なるものは、鰺(千二百萬圓)、鯉(七百萬圓)、鯉、鮭(五百萬圓)の三種にして、烏賊(四百萬圓)、鯛(三百萬圓)、鱒(二百萬圓)之に次ぎ、乾鮑、海參、鰻鱧、鮪、鰯、鱒等皆産額百萬圓に上る、其他昆布、寒天等又産額多し。

製鹽は、年額七百萬石、價格九百萬圓に達す、瀬戸内海地方最も盛也、所謂十州鹽田是れ也、主として氣候乾燥雨量少きに基く。

農産 我國は元來農國なるを以て、農民は人口の三分の二を占め、耕地凡五百廿餘萬町歩あり、米は主産物にして總額五千萬石、多産地は新潟、兵庫、愛知、福岡、米質

の最良地は三重、熊本、兵庫、岐阜、山口の諸縣とす。米は盛んに歐州に輸出するを以て又其不足を補ふべく、印度、支那より盛に輸入す、麥の産額は米の半額にして、茨城、埼玉、愛知、兵庫、千葉を多産地とす、而も品質多くは粗悪なるを以て、米國、加奈陀、濠洲より小麥及麥粉を輸入す。

茶は重要な輸出品にして、總額八百萬貫に達す、臺灣は其四分の一に近く、京都は品質を以て優り、静岡は産額を以て勝る、砂糖は臺灣、琉球等に産し、凡二千七百萬貫に達するも、國用には非常の不足あり、盛に輸入を仰ぐ、現今製糖業に従事するものも、原料糖は皆海外より輸入す、葉煙草の良質多産地は、茨城、栃木、鹿兒島、福島、神奈川等にして、産額九百八十萬貫に達し、卷煙草として清韓に輸出す、藍は徳島、琉球、鹿兒島其他に一千五百萬貫を産するも、猶外國の輸入を仰ぐ、麻、大豆、綿等も各地に産するも、矢張輸入を免れず。

蠶業は逐年盛大に赴き、長野、群馬、埼玉、岐阜、愛知は、蠶業地の中心たり、其他各縣とも漸次産額を増加し、非蠶業地と稱せらる、青森、沖縄、香川等に於ても、約

二千石を産す、繭の總産額は二百八十三萬石を越え、外國貿易品の第二位たり。

鑛産 本邦は地質の複雑なるに依り、鑛物の種類多く、近年採鑛法の改良進歩に伴ひて、産額著しく増加せり、石炭は鑛産の第一位にして、年額九百五十萬噸三千五百萬圓に達し、此中五百萬噸は福岡の産也、北海道、佐賀、長崎、福島之に次ぐ、總額の五割は東洋各地に輸出し、重要な産物たり、銅は五千五百萬斤一千七百萬圓に達し、鑛産の第二位を占む、足尾、阿仁、別子を其多産地とす、是又重要輸出品の一也、銀は一萬六千貫二百萬圓を産し、其半額は羽後の産也、金は鹿兒島、佐渡、秋田、福島、北海道等に多く、總額八百五十貫四百廿五萬圓に達す、鐵は本邦に少く、福岡、岩手、島根、島取、広島其他より九百萬貫を産するのみ、多くは米英の輸入を仰ぐ、石油も新潟、静岡其他より一百万石を産するに過ぎず、米露の輸入を俟つ。

工業 國富増進の策として、工業の發達を企圖するは、朝野の國論となり、近時大工業の勃興を見るに至れり、特に我邦は石炭に富み且水力の利用すべきもの多く、工業の原動力に乏しからざるのみならず、邦人は工職家としての先天的技能を有するを

以て、本業は將來益々發達すべき好望あり、織物業は京都の絹織、群馬の絹綿交織、福井の羽二重、愛知の木綿、滋賀の麻織等著名にして、全産額は一億八千萬圓に達す、蠶糸業は二百五十萬貫を超え、此二者は重要な輸出品也、綿絲業は東京大阪の大會社を始め、岡山、兵庫最も盛也、産額三千六百萬貫に達す、原料たる綿花は重に外國の輸入を仰ぐ。

漆器は本邦の特産にして重要輸出品也、和歌山の黒江を第一とし、京都、輪島（石川）、静岡、若松等各様の特色を有す、窯業は愛知を第一とし岐阜、佐賀、石川、京都之に次ぎ、産額七百萬圓、又特産として輸出す、蠟表花莖は大分、廣島、岡山最も盛んにして、大に外國に歡迎せらる、麥稈眞田も輸出品の一にして、岡山、愛知、東京を最とし、近時六百萬圓に達せり、製紙は高知、愛媛、岐阜、静岡を主とし、清酒は兵庫縣、醤油は千葉を最とす、其他麥酒葡萄酒等の醸造も盛也。

商業 内國商業の重なる貨物は、米を主として清酒、織物、麥、醤油、麥酒、甘藷、豆類、生絲、茶等之に次ぎ、石炭、木材、魚介、陶器、紙類等亦之に亞ぐ、又其商業

地の最も繁榮なる地を舉ぐれば、東京、大阪、名古屋、仙臺、廣島、函館、小樽、徳島、福岡、金澤等とす、東京は横濱と相俟ち、大阪は神戸と相助けて、全國の商業を支配す、是を我國の二大中心市場とす。

外國貿易は逐年盛運に向ひ、最近額八億五千四百萬圓に達す、而も例年數十萬圓の輸入超過を見るは、慨すべき現象とす、而も此不平均は工業の發達、商業の進歩と相俟ちて、漸次に平均を得べし、我商工業家たるもの、大に輸出超過の抱負を以て、奮勵一番せざるべからず、輸出品の筆頭第一は生絲にして、之に亞ぐは絹布類、茶、米、石炭、銅、摺附木、水産物等とす、華客の重なるものは、米國を首とし、佛國、支那英國、香港、印度、朝鮮、伊太利、獨逸、露領亞細亞等の取引亦盛也、輸入品は綿類を第一とし、米、砂糖、金屬、金屬器、石油、毛布及毛織物、麥粉等之に亞ぐ。

(八)國勢一斑 開國僅に四十余年、國勢發展の迅速なること、世界に類を絶す、殊に日清日露の二大戦役後、國運勃興の氣勢熾なること、更に歐州人の驚嘆に値す、是れ偏に國民教育普及の結果にして、小學校の數無慮二萬七千四百六、中學、師範、高

等學校の數三百十四、大專三、專門學校實業學校其他の數五千二百八十六、併せて總數三萬三千校に達し、現今就學者五百八十四萬余、卒業生百十七萬余を有す、實に盛なりと云ふべし。

更に文化の開發に與りて力ある、交通機關の發達を見るに、鐵道は正に六千四百十一哩に達し、一千四百の都市を連絡し、年額凡一億一千五百萬の旅客と、二千二百萬噸の貨物を運ぶ、東京、大阪、京都、横濱、名古屋、神戸等樞要の都府には、雷車鐵道ありて、市内の交通を助く、電話の長距離線も着々延長せんとす、電信線は、三萬五千二百余里に達し、郵便物は年額十二億七千萬を數ふ、海に浮ぶの商船は百廿八萬噸を超へ、二百五十萬石の日本船と相俟ちて、海上の交通頗る自在也。

特に帝國造船術の進歩に至りては、更に驚くべきものあり、吳、横須賀の二大船渠は僅に一歳半の日月を以て、二萬噸以上の大艦を竣成するの、技術的速力を有し、世界列國の見て以て、心膽を寒からしむる所也、三菱造船所、川崎造船所の續々新大船を竣工するも、亦驚くべき進歩ならずや。

日露戰役後の帝國陸海軍は、實戰の經驗に依り、其戰術、訓練、武器全く戰爭前と趣を異にし、其整齊完備、其精銳勇敢、恐らくは世界獨歩ならん、海軍は正に薩摩安藝二艦艇の艦裝終へんとす、更に二萬一千噸の新姉妹艦龍骨を横へられ、陸軍は正に十六師團に達し、事有るの日、百萬の大兵一令の下に動くべし。

萬國地理主點

終

明治四十一年九月十日印刷
明治四十一年九月十八日發行

地理主點與付

定價金三十五錢

郵税金六錢

著者 伊藤銀月

東京市本郷區天神町二丁目二十五番地

發行者 日高藤兵衛

東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷者 小西幸吉

東京市神田區三崎町三丁目一番地

印刷所 日本印刷株式會社

(電話本局千八百四十番)



著作權所有

發行所

東京市本郷區天神町二丁目二十五番地

日高有倫堂

大 賣 捌 所

東京市神田區表神保町
 東京市京橋區中橋廣小路
 東京市日本橋區住吉町
 東京市神田區裏神保町
 東京市京橋區尾張町
 大阪市佃後町四丁目
 大阪市心齋橋南久太郎町
 名古屋市本町
 靜岡市上魚通
 靜岡市馬場町
 京都市三條川原町
 岡山市西大寺町
 岡山市中町
 廣島市鹽屋町
 廣島市東橫町
 周防國岩國町
 山口大市町
 下の關市四南郡町
 筑後國久留米市
 熊本市新町
 高知市種崎町

東京 川堂
 前誠 屋社
 至田 社
 上醒 館
 警寶 社
 岡寶 社
 福音 社
 川瀨 助
 小澤 堂
 明治 堂
 文明源 堂
 寶文 堂
 與田金 堂
 森博 堂
 積善 館
 友田 助
 白銀 社
 全支 店
 上文山 店
 菊文 堂
 長崎 次
 澤本 駒

橫濱市辨天通
 信州上諏訪町
 信州松本市
 信州長野市
 越後國長岡
 越後國水原
 越後國新潟町
 高岡市守山町
 金澤市片町
 水戸市泉町
 前橋市曲輪町
 宇都宮市馬場町
 宇都宮市鐵砲町
 仙台市大町
 仙台市大町
 仙台市大町
 陸中一の關
 弘前市土手町
 青森市米町
 北海道札幌南一條四三丁目
 北海道函館末廣町

正宮 坂心
 宮日 新
 松澤 榮太
 西張 次
 西喜 平
 覺張 六
 西喜 平
 學海 支
 宇都宮 書
 川都 銀
 煥平 書
 全支 堂
 內田 堂
 藤崎 堂
 鈴木 堂
 松榮 堂
 佐藤 堂
 今泉 堂
 全支 堂
 富貴 堂
 弘文 社

258
747

東泉
日高
倫堂